



【 開 催 要 領 】

第 244 回農林交流センターワークショップ 土壌を介した食の窒素循環の解析手法と予測手法

令和 7 年 3 月 6 日(木)～3 月 7 日(金)

内 容	食料生産～消費システム（フードシステム）全体を対象とした物質循環と環境負荷の把握、改善策の提示、具体的な行動への移行は、産学官全てに関わる重大な社会的課題となっており、国際連合の SDGs（No.12：つくる責任つかう責任、など）や農林水産省「みどりの食料システム戦略」の目標達成にも深く関わっています。 本ワークショップでは、特に窒素に焦点を当て、産学官から広く参加者を募り、農地土壌を介した食に関わる窒素循環とその改善策について、解析・予測技術の習得だけでなく、総合討論を行い、今後の研究交流につなげることを目指しております。
期 間	令和 7 年 3 月 6 日(木)～3 月 7 日(金)
受 講 方 法	【ハイブリッド形式による開催】※お申込み時、いずれかお選び下さい。 1. オンライン受講 農林水産省農林水産技術会議事務局 筑波産学連携支援センターから配信にて開催いたします。インターネット環境と PC があれば、自席からご参加いただけるオンライン形式です。 2. 対面式受講 筑波産学連携支援センター電農館 3 階セミナー室（茨城県つくば市観音台 2-1-9）
主 催	農林水産省農林水産技術会議事務局 筑波産学連携支援センター 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門
対 象	産学官の研究者・技術者・行政施策担当者等で、土壌を介した食の窒素循環の解析技術に関心のある方
募 集 人 数	15 名程度（全日程に参加することとし、代理の方の参加は認めていません。）
日 程	日程表（別紙）
申 込 方 法	筑波産学連携支援センターのホームページより、お申込みください。 ※ご所属機関で参加希望者を取りまとめて申し込みされる場合は、ホームページより申込書とアンケートをダウンロード後、ご所属機関の窓口にご提出いただき、ご所属機関の窓口から koryu7129@cc.affrc.go.jp 宛にメール添付にてお申込みいただきますようお願いいたします。
応 募 〆 切 り	令和 7 年 2 月 3 日（月曜日）まで
受講者決定	令和 7 年 2 月 10 日頃、メールにてお知らせいたします。
参 加 費	無料 ※受講後のアンケート回答は必須です（5～15 分程度）。
そ の 他	会場受講ご希望の場合 宿泊施設利用の有無については、受講決定後、事務局より確認のご連絡をいたします。 オンライン受講ご希望の場合 Microsoft Teams を使用します。 受講者は各種ブラウザからアクセスしていただきますので、専用ソフトのインストールは必要ありません。 ※本オンラインセミナーの録画・録音・撮影は禁止いたします。

（お申し込み・お問い合わせ先）

〒305-8601 茨城県つくば市観音台 2-1-9

農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター コーディネーション推進課 鈴木、木暮

TEL：029-838-7136 FAX：029-838-7204 E-mail：koryu7129@cc.affrc.go.jp

【日程表】

第 244 回農林交流センターワークショップ（オンライン講習会）
土壌を介した食の窒素循環の解析手法と予測手法
 令和 7 年 3 月 6 日(木)～ 3 月 7 日(金)

3 月 6 日 (木)

10:00-10:05	挨拶	本ワークショップについて	江口 定夫
10:05-11:00	実習	土壌を介した食の窒素循環、窒素フットプリント概説	江口 定夫
11:00-12:00	実習	土壌中の窒素動態予測モデルLEACHM概説	朝田 景
13:00-16:00	実習	LEACHMのWebツールによる窒素動態予測（1）	朝田、江口
16:00-16:30	実習	質疑応答	江口、朝田

3 月 7 日 (金)

10:00-11:00	実習	食の窒素フロー、耕畜食連携システム、堆肥による減肥等概説	江口 定夫
11:00-12:00	実習	食の窒素フットプリント計算ソフトによる評価手法	江口 定夫
13:00-14:00	実習	LEACHMのWebツールによる窒素動態予測（2）	朝田、江口
14:00-15:00	実習	土壌からの窒素溶脱等モニタリング手法	江口、朝田
15:00-16:00	実習	総合討論、質疑応答	江口、朝田

【ワークショップ講師】（◎：コーディネーター）

◎江口 定夫（農研機構 農業環境研究部門 土壌環境管理研究領域 主席研究員）

◎朝田 景（農研機構 農業環境研究部門 土壌環境管理研究領域 上級研究員）